

十日町地域 稲作生育速報（令和8年6月30日）

十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会

- 出穂期が平年より早まる見込みです。幼穂を確認し、適期に穂肥を施用しましょう。
- 5月中旬植えのほ場では、出穂期1か月前になるので中干しを終了し、浅水の間断かん水を行いましょ。
- 5月下旬以降植えのほ場で、まだ中干しを実施していない場合は遅れずに開始しましょ。

【水稻の生育状況】

- 5月中旬植えほ場では、茎数が多く推移しており、葉色の褪めが始まっています。
- 5月下旬植えでは、茎数は並で推移しています。

《コシヒカリの生育データ（6月30日現在）※（ ）内は指標値比・差》

調査地点	育苗様式	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
十日町（小黒沢） 標高 150m	稚苗	5/13	56 (104%)	581 (116%)	9.6 (-0.4)	36.7 (-2.3)
川西（上野） 標高 170m	稚苗	5/17	52 (96%)	652 (130%)	9.8 (-0.2)	40.9 (+1.9)
松之山（兎口） 標高 430m	中苗	5/26	51 (121%)	401 (108%)	9.8 (+0.6)	40.6 (+0.6)
津南（米原） 標高 450m	中苗	5/27	48 (100%)	522 (98%)	10.5 (+0.5)	43.1 (+1.1)

【気象予報】北陸地方の1か月予報（新潟地方气象台6月25日発表）

気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

【今後の管理】

1 中干し後の水管理

- ・出穂期1か月前には中干しを終了し、浅水の間断かん水で水に慣らしてから飽水管理に移りましょ。中干し直後の湛水（深水）は、酸素不足による根腐れや下葉の枯れ上がりにつながるのを避けましょ。
- ・なお、用水不足を懸念し、まだ中干ししていないほ場では、降雨の数日前に落水し、根の健全化を図りましょ。

2 ケイ酸追肥

- ・ケイ酸質肥料を出穂期40日前から1回目穂肥の間（6月下旬～7月中旬）に施用しましょ。根の水分吸収力が向上し、葉の温度が上昇しにくくなり、登熟期が高温になった場合も品質低下が軽減されます。

3 穂肥の適期施用

- ・今後高温が予想されていることから、出穂期は平年よりも早いと推測されます。
- ・極早生、早生品種では、1回目の穂肥施用時期となっています。速やかに穂肥を施用しましょ。
- ・ほ場ごとに幼穂を確認して、穂肥の施用時期を判断してください。

表 出穂期予想※から見た穂肥施用時期のめやす（6月30日現在）

標高 (移植時期)	品種	出穂期予想	平年比	穂肥施用時期	
				1回目	2回目
100～200m (5月中旬植)	五百万石	7月20日	やや早(-2)	6月30日	7月8日
	こがねもち	7月26日		7月8日	7月16日
	コシヒカリ	8月1日		7月14日	7月22日
300～500m (5月下旬植)	コシヒカリ	8月7日		7月20日	7月28日
	にじのきらめき	8月8日		7月9日	7月25日
	新之助	8月9日		7月19日	7月28日

※ 農業普及指導センター生育調査ほのデータを用いて推測。

表 穂肥施用時期のめやす

品種	1回目施用時期		2回目施用時期
	出穂前日数	幼穂長	出穂前日数
五百万石	20日	4mm	12日
こがねもち	18～15日	10mm	10日
コシヒカリ	18～15日	10mm	10日
にじのきらめき	30～25日	0～1mm	14日
新之助	21～18日	5～10mm	12～10日

4 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

- ・畦畔に斑点米カメムシ類が確認されています。
- ・イネ科雑草（メヒシバ等）が繁茂している所は速やかに草刈りを実施し、斑点米カメムシ類のすみかをなくしましょう。
- ・出穂期（ほ場内の5割が出穂した日）を基準に、薬剤の登録内容を確認の上、剤型に応じて散布時期を決定しましょう。

表 出穂期予想から見た薬剤散布時期のめやす（6月30日現在）

標高 (移植時期)	品種	出穂期予想	薬剤散布時期	
			粒剤	粉・液剤
100～200m (5月中旬植)	五百万石	7月20日	7/20～7/27	7/23～7/27
	こがねもち	7月26日	7/26～8/2	7/29～8/2
	コシヒカリ	8月1日	8/1～8/8	8/4～8/8
300～500m (5月下旬植)	コシヒカリ	8月7日	8/7～8/14	8/10～8/14
	にじのきらめき	8月8日	8/8～8/15	8/11～8/15
	新之助	8月9日	8/9～8/16	8/12～8/16

※薬剤の散布適期：粒 剤：出穂期～出穂期7日後
粉・液剤：出穂期3日後（穂揃い期）～出穂期7日後

(2) いもち病

- ・6月下旬にいもち病に感染しやすい気象条件（高温多湿）の日が複数あったため、7月初めには病斑が見られる可能性があります。
- ・こまめにほ場を確認し、葉いもちの早期発見、早期防除に努めましょう。

